



1月・2月の管理ポイント

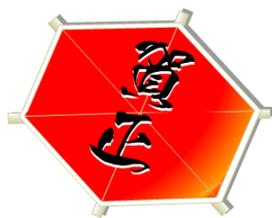
ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第139号

明けましておめでとうございます。

昨年は、弊社推進商品をご利用頂きまして、誠にありがとうございました。

本年も、抗ストレス剤『レボ』をはじめとする各種浸透剤や、抗ストレス剤『インターセプト』、サッチ分解剤『サッチ・マネージャー』などのラインナップで、ターフメンテナンスのサポートに努めてまいりますので、相変わらぬご支援を頂けますようよろしくお願い致します。



春先(3~5月)

春の水管理が、芝生の根をしっかりと伸ばすポイントです!!

レボは**土壌粒子の表面を極端に薄い膜で覆います**ので、土壌中の空隙率がアップし、表層の過湿を防ぎます。

この効果が、グリーンの表層を少し乾燥気味にし、根に軽いストレスを与えるため、根の伸長活動を活発にさせます。

定期処理することによって、根が下に伸びやすい環境が整います。夏が来るまでにしっかりと根圏が形成できるように管理していきましょう。

4月よりベントの本格的な生育最盛期になります。レボ+光合成細菌を定期処理することで土壌表層の通気性を確保できます。昨年末から蓄積されてきた悪臭物質を減らしていきましょう。

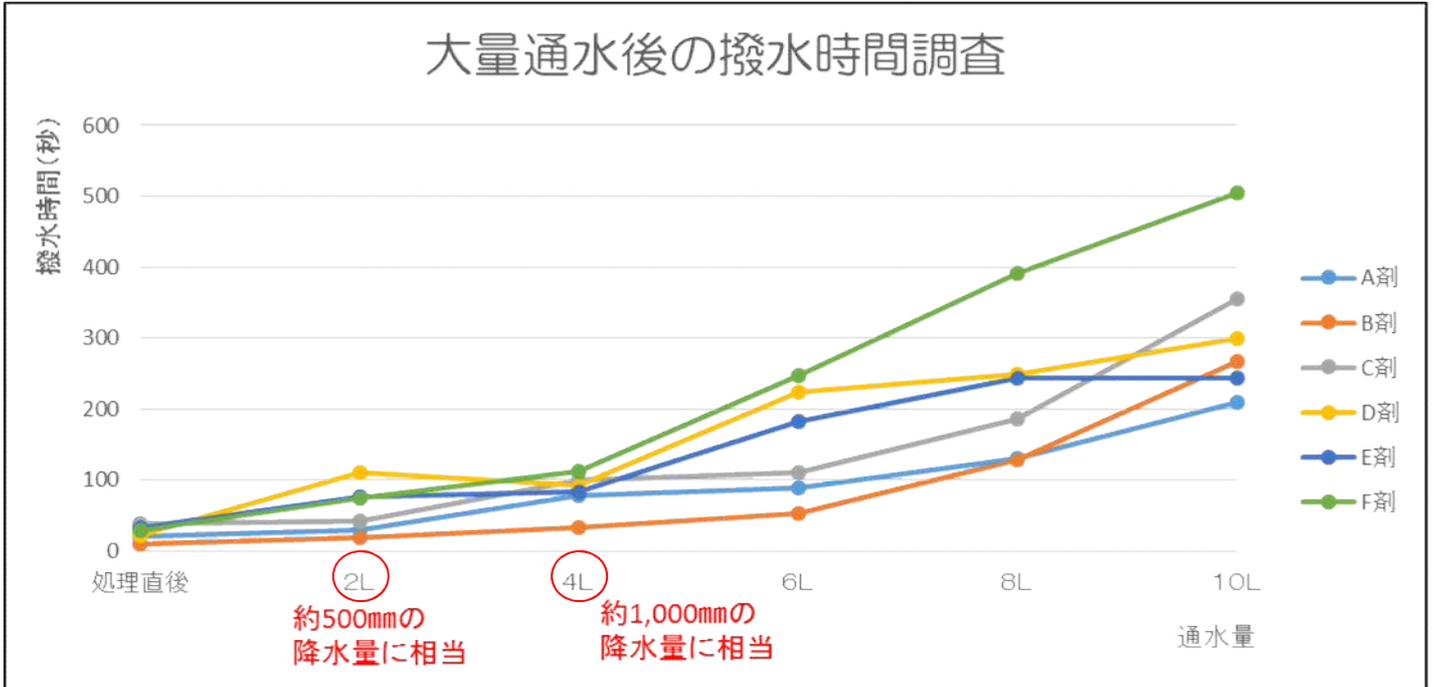
また地温の上昇に伴い、土着菌の活性も上がって行きます。

最初に土着菌の勢いを付けさせるために、動物性アミノ酸たっぷりのマリンパワーを処理して、土壌に栄養を与えておきましょう。

| | | | |
|--------|----------------------|------------------------------|---------------|
| 使用量：レボ | 2ml/m ² | 散布水量：200ml~1L/m ² | 散布回数：1ヶ月に1回 |
| 光合成細菌 | 1~2ml/m ² | 散布水量：1L/m ² | 散布回数：1ヶ月に1~2回 |
| マリンパワー | 2ml/m ² | 散布水量：1L/m ² | 散布回数：1ヶ月に1回 |

界面活性剤は降雨や散水で洗い流されるか？

浸透剤の主成分である界面活性剤は、土壌中では農薬成分などと同様に、微生物によって分解されます。浸透剤の効果がなくなる主な原因は、この微生物による分解だと言われています。では、降雨などにより物理的に洗い流されることは無いのでしょうか？



上のグラフは、撥水性を持った砂に浸透剤を処理し、大量の水を強制通水させ、浸透剤の効果がどの程度減衰したかを調査した試験の結果です。縦軸の撥水時間が長いほど撥水性が高い、つまり浸透剤の効果が悪くなっているということになります。

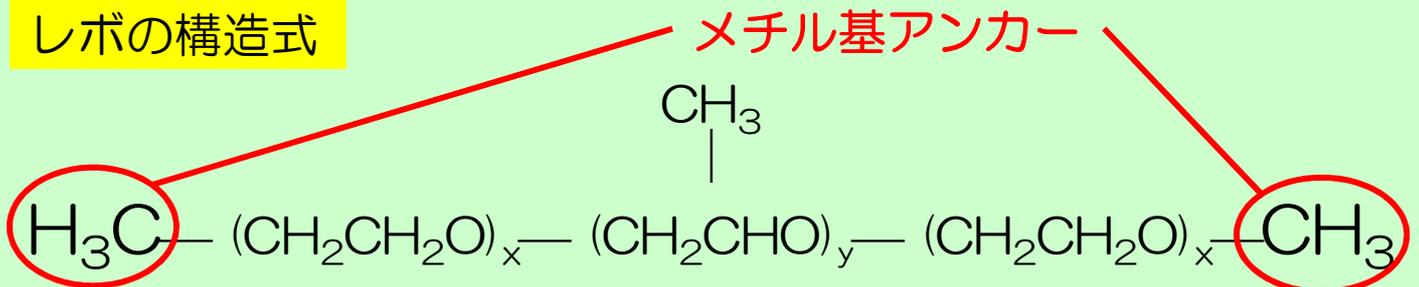
この試験では、いずれの浸透剤も通水量が増えるほど効果は悪くなっており、物理的に洗い流されていることが確認できます。ただし、この試験での通水量2Lは降水量500mmに相当するため、**かなり大量の通水が無いと浸透剤は洗い流せない**、という見方もできます。

現場での降水量、散水量を考慮すると、やはり**浸透剤の効果がなくなる主な原因は、微生物による分解である**と言うことができそうです。

※浸透剤の残効の違いについて

浸透剤が微生物により分解されるのであれば、浸透剤の残効の違い＝分解されるスピードの違い、ということになります。微生物により分解されにくいものの方が、浸透剤としての残効は長いということです。当社浸透剤の中では、レボが比較的分解されにくいと言われています。これは、レボ分子の両サイドについているメチル基アンカーの影響で、微生物による分解が進みにくいことが原因だと考えられます。

レボの構造式



長期残効をもった浸透剤には、分解されにくい界面活性剤が使用されていると考えられます。